

# 菊陽人 りさーち



あさひ りおな  
**朝比 里緒菜さん (10歳)**  
[辛 川]

- **趣味**  
しゃべること、フラフープ
- **将来の夢**  
学校の先生
- **自分を一言で表すと**  
いつも元気
- **自 慢**  
習字で準1級を持っている

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。

注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



やまぐち なお  
**山口 奈緒さん (9歳)**  
[辛 川]

- **趣味**  
ピアノ
- **今後の目標**  
ピアノをもっと練習する！
- **自分を一言で表すと**  
しっかり者(友人談)
- **自 慢**  
スケートができる

# ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
**人権  
作文シリーズ**  
【No.22】

「障がい」「病気」どちらも人間は避けられないところで生きているのだとおもいます。じいちゃんの退院を喜ぶ幼い心、短い時間でも同じ作業を通して友だちになった方の笑顔を楽しんでいる優しい心が伝わってきます。また、「自分から立ち上がって行動する。」中学生の提案は、わたしたちもすっかり肝に銘じたいものです。

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

**ワークキャンプ**  
武蔵ヶ丘北小学校6年 三池 花  
(現在中学1年)

私がワークキャンプに参加しようと思ったのは、ボランティア活動に興味があったことと障がいのある方々への周りからの間違った見方をこの活動を通してなくしていきたいなと思ったからです。

熊本菊陽学園での一泊二日の活動では多くのことを学びました。そして学園の方々と仲良くなれました。学園の方と一緒に作業の体験をさせてもらいましたが、作業一つ一つにコツがありました。隣に座って作業をしている方にやさしく教えてもらいうれしかったです。同じ作業に取り組む中で話もたくさんできてなかなかなりました。お菓子の袋作りで、普段つかっている袋がここで仕上げられているんだなと思いました。あつという間にワークキャンプも終わりの時がきました。お別れの時感想を言いながら、なんだかとてもさびしくなりました。作業の時友達になった方がわたしを見てニッコリされているのが見えて、ちよつとうれしくなりました。一緒に来ていた菊陽北小の人とも友達になりました。帰りにワークキャンプに参加させてもらいありがとうございました。障がいがある方だからと言って違う見方をしてはいけないと改めて分かりました。

体験させてもらったことや感じたこと

とをこれからの生活に役立てていきたいと思いました。

## 差別をなくす第一歩

町人権子ども集会実行委員長  
森 太志 (菊陽中学校)

私たち実行委員会は、この町人権子ども集会を開くにあたって、五回の準備会を開きました。準備会では、各学校にある様々な問題点や、そこから見える様々な課題が出されました。私は、話し合いをしていく中で現実のおかしさを感じました。課題の中に「おかしなことを伝えよう」としては伝わらない、伝えられない」という項目があります。私はなぜ自分から立ち上がって行動せずに、心の中にとどめて

## じいちゃんのたいいんおいわい

おしょうがつのまえにホテルにとまりにいった。じいちゃんのたいいんおいわいでとまりにいった。じいちゃんはきゆうにたおれてにゆういんとったけどよくなったけんよかった。ホテルにいったときゆきがつもとったけんそりであそんだ。おにいちゃんとおともだちとあそんだ。おにいちゃんのひとりはへやでねとって、おじいちゃんはテレビをみよった。ママとパパとばあちゃんはおふろにはいって。ゆきであそんだあとみんなでごはんたべた。いっぱいごちそうがでてきたけどじいちゃんはんあまりたべなかった。おにいちゃんがいっぱいたべよった。もうじいちゃんげんきになってびょういんいかにでいいけんよかった。

白菊園 いたうけんせい



▲泊まったホテルやお祝いの席

▼白菊園のお友だち



おくのかと思いましたが、自分思ったことはためらわず相手に伝えてこそ、差別をなくしていくための第一歩になるのではないかと思います。

このような考えになったのも、自分が実行委員長という立場で今ある課題を根底から探っていたからだと思えます。みなさんもこれから差別をなくしていくという主体性を持って行動すれば、生活の中にあるたくさんのおかしさを見つけることができると思います。目的にもあるように集会で学んだことを交えて、これから差別をなくすための具体的な一歩を踏み出しましょう。

# きくよう文芸

## 菊陽句会報

旅に詣ず社の神は留守であり	坂本百合子	親芋を囲む子芋のまろまろと	吉野 早苗
柚子香る齢かさねて人を恋ふ	田中 郁子	生涯の句心誘ふ芭蕉の忌	川口 豊子
寒牡丹気韻に満つる武家屋敷	村田 正三	おだやかに広重暮暮早し	井上久美子
冬晴れの遠くに阿蘇の座りをり	井 子文	芸無しや拍手々々の忘年会	宮川ユキエ
片言に咳の混じりて電話口	財津 早雪	展がれる刈田守りて阿蘇の神	日高 妙子
光と影彩を織りなす紅葉かな	原野レイ子	忌を修め寛ぐ庭の紅葉晴れ	曾我 育代
仕事はてはつとひと息年の暮	西村ひとえ	枯向日葵鳥の餌場となりし畑	曾我トモ子
枯藁や土塀に残る入日影	力 幸子	楯紅葉今に映え継ぐ参勤路	紫藤 祥子
わが庭の初生りの柚子いとおしく	寺尾千代子	絵筆とり画布にとどめむ冬茜	村上 朋子
小春日や夫に誘はる美術館	高橋 孝子	初ごおり開戦記念日といふ朝	合志 重子
人集うドームに落葉も駆けつける	佐藤 航	阿蘇嵐べタル抗ふ冬の句座	野口 令史
店じまい秋の夕焼け閉じこめる	佐藤 健	我が人生歩みはてなし枯野かな	松橋 強
老農の憐れ黍畑霜枯れて	佐藤 節	山顛に雪の光りて今朝の寂	佐藤 澄世

## 短歌会

木枯らしにゆらゆら揺れる黄色き実は隣りの庭に花咲くごとし  
東天に煌めく星を見上げたり夜更けの寒気は頬に差しつつ  
朝あけて行きし宮居は静まりて長き参道に雪積みており  
窓遠く明るき楯の紅葉は梢高かり青空に映え

今村 貞子  
菊川あさみ  
下田 久子  
森 敦子